



2024年8月1日 発行  
社会福祉法人 尚徳福祉会  
保育園与那原ベアーズ2

暑い日が続いています。子どもたちは暑さの中でも夢中になって遊ぶので、水分の補給には十分に気を配りましょう。また、例年にない暑さで疲労感が増し、食欲や体力が落ち、免疫力も下がる可能性もあります。暑さに負けない体力づくりをするためにも、無理はせず規則正しい生活を心がけ、しっかりとご飯を食べられる工夫をしましょう。

### 《 7月の感染症情報 》

新型コロナウイルス感染症	… 3名
インフルエンザ	… 2名
流行性角結膜炎	… 1名
咽頭結膜熱（プール熱）	… 1名
マイコプラズマ感染症	… 1名
突発性発疹	… 1名

### 登園許可証明書・登園届

「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づき、集団で過ごす保育園では、予防すべき感染症に罹った場合、集団の健康を守るためにお休みしていただくことがあります。

病気が回復して再登園する際には、感染症によって、医師記入の「登園許可証明書」また保護者記入の「登園届」の提出が必要です。提出が必要な感染症について、玄関ホールに掲示、または保育園のしおりに記載されています、ご覧ください。

「登園許可証明書」・「登園届」は玄関ホールに用意しています。または保育園のしおにもありますので、コピーなどしてご利用ください。

### 日焼け止めについて

日差しがますます強く感じる真夏がやってきました。日焼けは日光の紫外線で起こります。紫外線を浴びすぎると、

- ① しわやシミなどの皮膚老化を早める。
- ② 将来、皮膚ガンを起こしやすくなる。
- ③ 目の病気（白内障、翼状片、網膜のメラノーマというガンなど）を起こしやすくなる。

ということがいわれています。赤ちゃんの頃から強い日焼けをしすぎないように注意しましょう。日焼け止めは、低刺激性と書いているものを選び、日常生活ではSPF15～20、PA++を目安にしましょう。  
（参考「日本小児皮膚科学会」）

### 薬の取り扱いについて

園ではお薬はお預かり出来ません。

風邪などの急性の病気については、各ご家庭で保護者の方が責任をもって飲ませてください。

体調不良などでお薬が処方される際には、1日2回(朝・夕)か1日3回(朝・夕・寝る前)での処方が可能か主治医へご相談下さい。疾患によっては主治医の指示に従い与薬することもあります。その際は「与薬に関する主治医意見書(医師記入)」と「与薬依頼書(保護者記入)」の提出が必要となります。（「保育園のしおり」より）

- 園での投薬が必要な場合はご相談ください。
- 用紙は玄関ホールに用意しています。  
「与薬に関する主治医意見書」は受診時に持っていき、必要時に主治医へ記入依頼をお願いします。
- お薬は職員へ(その日に園で投薬する分のみ)直接、手渡し下さい。

### お薬の飲ませ方

#### シロップ

薄めずにそのまま飲ませます。乳児は必要な量をスポイトやスポーンで取り、口の中に入れてみましょう。



#### 粉薬

- 水で溶く場合 → 少量の水か、ぬるま湯で薬を溶かします。飲ませる時はスプーンやスポイトなどを使いましょう。
- 直接口に入れる場合 → 開いた状態の口の中に直接粉薬を入れます。
- 練る場合 → 小さな器に粉薬を入れ、数滴の水をたらし、だんご状に練ります。練った薬は頬の内側あたりに塗ります。

飲み薬は水で服用するのが基本です。ミルクに混ぜると、ミルク嫌いになったり、残してしまうと1回量を服用できなかったりします。好きな飲み物や食べ物（アイスなど）に混ぜて飲ませる、服薬補助ゼリーを使用するなど、お子さんの好みや性格に合った方法で工夫するのも良いと思います。ただ、柑橘系などの酸性のジュース、スポーツドリンクなどは苦みが出ることもあります。その他、お薬の効果に影響が出るものや味が変化してしまうものもありますので、必ず薬剤師に相談してください。

「早く良くなるために飲もうね」など、声をかけながら飲ませてください。飲めたら必ず褒めてくださいね。